

事業完了（廃止等）報告書

調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 平成29年3月17日
調査研究事項	<p>《委託事業Ⅰ》</p> <p>【荒川区立第九中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導に関すること ・生活指導に関すること
調査研究のねらい	<p>近年、若年層の外国籍生徒、特に渡日して間もない生徒の割合が急増している。こうした生徒たちは日本語も十分に理解できず、日本の中学校で必要とされる習慣や規範意識が欠如している場合が多い。そのため、夜間学級全体として、学習指導や生活指導が浸透しにくい現状がある。</p> <p>その一方で、卒業はしたが、不登校等の理由により十分に学習の機会を得られなかった生徒（いわゆる既卒者）も入学が可能となり、これまで以上に多様な生徒が共に学習する。そのため、新たな実態に応じた効果的な学習指導と生活指導法を確立することが本校夜間学級の課題である。</p> <p>特に、多様な生徒の中でも既卒者の生徒たちの実態を把握し、一人一人の状況に応じた効果的な指導や教材の在り方について研究し、将来、社会の中で自立して生きる力の向上を図ることをねらいとする。</p>
調査研究の成果	<p>適切な学習指導と生活指導をする上で、各夜間中学校に在籍する生徒の実態を調査した。全体として外国籍の生徒が8割を越え、内4割の生徒がネパール籍であった。年代別には10代の生徒が5割を超えており、これまで学校生活のモデルとなる60代以上の生徒は約1割であった。このことから、日本語での指導が困難になっており、しかも生徒同士がモデルとなることも難しい実態が把握できた。</p> <p>また、今年度から入学した既卒者の数は多いとは言えないが、夜間中学にも馴染めずに登校が続かない生徒もいた。外国籍の生徒など、多様な生徒が在籍する環境があう生徒もいる一方で、コミュニケーションが取ることができずに悩んでいる生徒もおり、クラス配置や外部機関との連携などの学校での取り組みについて事例研修を行った。いまだ、研究はその緒についたばかりであり、更に継続した研究を行う必要がある。</p> <p>既卒者についての適切な支援を行うために、臨床心理士によ</p>

る校内研修を実施し、障がいについての理解や必要とされる支援についての理解を深めることができた。

今後も、外国籍の生徒や既卒者の生徒がお互いを尊重しながら、将来、日本の社会で自立するために必要とされる教育を推進していく。